

国立民族学博物館研究報告 vol.9-2; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	9
号	2
発行年	1984-08-31
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009237

1984・6 9.2 卷号

国立民族学博物館 研究報告



サンゴ礁の島における土地保有と資源利用の体系

——ミクロネシア，サタウル島の事例分析—— 須藤健一

ニューギニア低地・ギデラ族における小児の病気と治療—— 秋道智彌

アッラー，神，アラーの神

——イスラームの日本の理解をめぐる一考察—— 大塚和夫

民族誌映画の撮影方法に関する試論—— 大森康宏

Normative Models and Human Behavior :

Some Theoretical Issues in Household Resource Use—— Kenneth Ruddle



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

9 卷 2 号

1984年6月

目 次

サンゴ礁の島における土地保有と資源利用の体系 ——ミクロネシア, サタワル島の事例分析——	須藤 健一	197
ニューギニア低地・ギデラ族における小児の病気と治療	秋道 智彌	349
アッラー, 神, アラーの神 ——イスラームの日本的理解をめぐる一考察——	大塚 和夫	383
民族誌映画の撮影方法に関する試論	大森 康宏	421
Normative Models and Human Behavior: Some Theoretical Issues in Household Resource Use	Kenneth Ruddle	459
彙 報		473
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		480
国立民族学博物館研究報告執筆要領		481

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 9 No. 2

June 1984

SUDO, Ken-ichi	Systems of Land Tenure and Resource Management on Satawal Island, Micronesia.....	197
AKIMICHI, Tomoya	Children's Illness and Curing in Lowland Papua.....	349
OHTSUKA, Kazuo	Allah, Kami and Arā-no-Kami —A Study of the Japanese Way of Understanding Islam—	383
OMORI, Yasuhiro	A Study in Visual Anthropology —Filming from an Ethnological Perspective—.....	421
RUDDLE, Kenneth	Normative Models and Human Behavior —Some Theoretical Issues in Household Resource Use—	459

彙報

(昭和59年1月～
昭和59年3月)

人事異動

(教育職) (辞職)

3月31日 国立民族学博物館第三研究部助手 伊東一郎 (早稲田大学講師文学部)

シンポジウム

◎日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅤ

『社会組織——イエ・ムラ・ウジ——』

日時 昭和59年1月25日(水)——28日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 このシンポジウムは国立民族学博物館 特別研究「日本民族文化の源流の比較研究」の一環として開催された。

今回は、「社会組織——イエ・ムラ・ウジ——」というテーマのもとに、日本を含む東アジア民俗社会の形成と発展をめぐる諸問題について多角的な視野から活発な討議を展開した。

シンポジウム実行委員会

竹村 卓二 (委員長)	国立民族学博物館第一研究部教授
小山 修三 (副委員長)	国立民族学博物館第四研究部助教授
大塚 和夫	国立民族学博物館第三研究部助手
重松真由美	国立民族学博物館第一研究部助手
須藤 健一	国立民族学博物館第四研究部助手
田邊 繁治	国立民族学博物館第二研究部助教授
中山 和芳	国立民族学博物館第一研究部助手
宮本 勝	国立民族学博物館第二研究部助手
渡瀬 勉	国立民族学博物館管理部庶務課共同利用係
藤岡 久子	「日本民族文化の源流」事務局

参加者

1. 報告者

石井 進	東京大学
上野 和男	明治大学
甲元 真之	熊本大学
末成 道男	聖心女子大学
竹村 卓二	国立民族学博物館
都出比呂志	大阪大学
春成 秀樹	国立歴史民俗博物館
比嘉 政夫	琉球大学
吉田 孝	山梨大学
王 崧興	香港 香港中文大学

2. 討論参加者

網野 善彦	神奈川大学
牛島 巖	筑波大学
梅棹 忠夫	国立民族学博物館
江守 五夫	千葉大学
大塚 和夫	国立民族学博物館
大林 太良	東京大学
可児 弘明	慶応義塾大学
喜多村 正	島根大学
小山 修三	国立民族学博物館
佐々木史郎	東京大学
佐々木高明	国立民族学博物館
重松真由美	国立民族学博物館
清水 昭俊	広島大学
杉山 晃一	東北大学
須藤 健一	国立民族学博物館
鷺見 等曜	岐阜経済大学
田邊 繁治	国立民族学博物館
千葉 徳爾	明治大学
中山 和芳	国立民族学博物館
藤井 正雄	大正大学
松澤 貞子	国立民族学博物館
松園万亀雄	東京都立大学
宮本 勝	国立民族学博物館
山路 勝彦	関西学院大学
渡辺 欣雄	武蔵大学
Keith Brown	アメリカ、ピッツバーグ大学
崔 吉城	韓国 啓明大学校
金 宅圭	韓国 嶺南大学校

日程

1月25日(水)
13:30 (座長 佐々木高明)
館長挨拶 梅棹忠夫
13:40 (座長 佐々木高明)
問題提起 竹村卓二

- 15:00 (座長 須藤健一)
日本民俗社会の基礎構造
上野和男
- 1月26日(木)
10:00 (座長 松園万亀雄)
琉球民俗社会の構造と変容
比嘉政夫
- 13:00 (座長 金宅圭)
韓国の社会組織——そのヴァリエーションをめぐる——
未成道男
- 15:00 (座長 山路勝彦)
漢民族の社会組織 王崧興
- 1月27日(金)
10:00 (座長 杉山晃一)
非定着的<客民>の社会構造——
ヤオ族と木地屋を中心として——
竹村卓二
- 13:00 (座長 網野善彦, 大林太良)
中世イエ社会の成立 石井 進
- 15:00 (座長 江守五夫)
日本古代のウヂとイヘ 吉田 孝
- 1月28日(土)
10:00 (座長 大林太良)
国家形成期における階層化とムラ
都出比呂志
- 13:00 (座長 小山修三)
採取社会から農耕社会へ
(1) 日本 春成秀樹
(2) 周辺地域 甲元真之
- 15:00 (座長 竹村卓二)
総括討論

シンポジウム委員会

- 端 信行 国立民族学博物館第三研究部助教授
(委員長)
- 守屋 毅 国立民族学博物館第一研究部助教授
- 松山 利夫 国立民族学博物館第一研究部助教授
- 大塚 和夫 国立民族学博物館第三研究部助手
- 杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部助教授
- 森田 恒之 国立民族学博物館第五研究部助教授
- 渡瀬 勉 国立民族学博物館管理部庶務課共同利用係
- 河合 昌子 「現代日本文化における伝統と変容」事務局

参加者

1. 報告者

- 石森 秀三 国立民族学博物館
- 井上 忠司 甲南大学(民博客員教官)
- 梅棹 忠夫 国立民族学博物館
- 大塚 和夫 国立民族学博物館
- 大給 近達 国立民族学博物館
- 梶原 景昭 大阪大学
- 角野 幸博 大阪大学
- 小室 豊允 大阪府立大学
- 袖井 孝子 お茶の水女子大学
- 園田 英弘 京都大学
- 祖父江孝男 国立民族学博物館
- 高田 康孝 愛知学泉大学
- 坪内 良博 京都大学
- 野村 雅一 国立民族学博物館
- 端 信行 国立民族学博物館
- 福田アジオ 武蔵大学
- 守屋 毅 国立民族学博物館

2. 討論参加者

- 青木 保 大阪大学
- 石毛 直道 国立民族学博物館
- 熊倉 功夫 筑波大学
- 栗田 靖之 国立民族学博物館
- 杉田 繁治 国立民族学博物館
- 垂水 稔 国立民族学博物館
- 友枝 啓泰 国立民族学博物館
- 星野 命 国際基督教大学
- 松原 正毅 国立民族学博物館

◎「現代日本文化における伝統と変容」

日本人の人生設計

日時 昭和59年2月8日(水)ー10日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 このシンポジウムは特別研究「現代日本文化における伝統と変容」の一環として開催された。

今回のシンポジウムのテーマは「日本人の人生設計」である。このテーマのねらいは、現代日本人の、文化としての「人生」を、さまざまな角度から実証的に解明しようとするところにある。

乗 報

松山 利夫 国立民族学博物館
森田 恒之 国立民族学博物館
米山 俊直 京都大学

日 程

2月8日(水)

10:30 (司会 祖父江孝男)

あいさつにかえて 梅棹 忠夫
問題提起:「家庭」=「社会」系の進化
端 信行

13:15 <結婚> (司会 端 信行)

結婚風俗の変遷
—<神前結婚>を中心に—井上 忠司
離婚を通してみた結婚の設計
坪内 良博

15:30 <親子> (司会 杉田 繁治)

民俗としての親子 福田アジオ
子の不始末と親の責任
—アラブとの比較を通して—
大塚 和夫

2月9日(木)

10:00 <学校> (司会 森田 恒之)

「日本人の人生設計」教育 園田 英弘
学習塾とカルチャー・センター
守屋 毅

13:15 <仕事> (司会 松原 正毅)

しごとの十全性 梶原 景昭
仕事観の変貌 野村 雅一

15:30 <転機> (司会 友枝 啓泰)

現代日本人の人生に“転機”は
あるか? 高田 康孝
異文化との出会い
—日系コロニアの文化は何処
へいく— 大給 近達

2月10日(金)

10:00 <財産> (司会 松山 利夫)

財産としての住宅 角野 幸博
家計簿からみた財産観 石森 秀三

13:15 <老後> (司会 井上 忠司)

老後の設計 袖井 孝子
新隠居論
—老人生き方学と制度の研究—
小室 豊允

15:30 総括討論 (司会 祖父江孝男)

◎「近代世界における日本文明」
—都市と都市化の比較文明学—

日 時 昭和59年3月19日(月)—

3月26日(月)

場 所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研
究所求是荘

摘 要 本シンポジウムは財団法人谷口工業
奨励会四十五周年記念財団の後援によ
り国立民族学博物館, 財団法人千里文
化財団の主催で開催された。

今回は「都市と都市化」というテー
マをとりあげ, 国内外の研究者が参加
して行なわれた。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委 員

祖父江孝男 国立民族学博物館第一研
究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研
究部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研
究部長

加藤 九祚 国立民族学博物館第四研
究部長

岩田 慶治 国立民族学博物館第五研
究部長

秦 明夫 国立民族学博物館管理部
長

専門委員

ヨーゼフ・クライナー

ボン大学日本研究所長

ハルミ・ベフ

スタンフォード大学教授

米山 俊直 京都大学教授

実行委員会

委員長

守屋 毅 国立民族学博物館第一研
究部助教授

副委員長

小川 了 国立民族学博物館第三研
究部助手

委 員

端 信行 国立民族学博物館第三研
究部助教授

庄司 博史 国立民族学博物館第三研
究部助手

石毛 直道 国立民族学博物館第四研
究部助教授

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部助教授
 磯村 紘 国立民族学博物館管理部庶務課長
 湯浅 勲子 財団法人 千里文化財団 専務理事
 宇治日出二郎 財団法人 千里文化財団 事業部長

参加者

Sergei ARUTYUNOV Academy of Sciences of the USSR
 Harumi BEFU Stanford University
 Ronald DORE The Technical Change Center
 Josef KREINER Universität Bonn
 René SIEFFERT Institut National des Langues et Civilisations Orientales
 Henry SMITH University of California, Santa Barbara

梅棹 忠夫 国立民族学博物館
 小川 了 国立民族学博物館
 園田 英弘 京都大学人文科学研究所
 鳴海 邦碩 大阪大学・工学部
 守屋 毅 国立民族学博物館
 米山 俊直 京都大学

日程

3月20日(火) (国立民族学博物館)
 10:00
 開会式 司会 守屋 毅
 10:15
 基調講演 梅棹 忠夫
 13:00(座長 米山 俊直)
 都市と劇場 守屋 毅
 都市核としての小学校 鳴海 邦碩
 3月21日(水) (国立民族学博物館)
 10:00(座長 ハルミ・ベフ)
 Proletarian towns and middle class towns ロナルド・ドーア
 Comparison of Urbanization Patterns in Japan and in Soviet Armenia セルゲイ・アルチュノフ
 15:15(座長 ヨーゼフ・クライナー)
 ボストンと京都 園田 英弘
 3月22日(木) (国立民族学博物館)
 10:00(座長 ヨーゼフ・クライナー)

都市における流入民・異人 小川 了
 3月23日(金) 移動日(大津へ)
 3月24日(土) (求是荘)
 13:00(座長 小川 了)
 Changing Conceptions of City vs Country in Japan and England
 ヘンリー・スミス
 ブルジョワと町人 ルネ・シフエール
 3月25日(日) (求是荘)
 10:30(座長 守屋 毅)
 総括報告 米山 俊直
 11:30
 総括討論
 3月26日(日) (ホテルレークビワ)
 9:30
 ミーティング
 12:00
 解散

◎「子ども文化の文化人類学的研究」

日時 昭和59年3月26日(月)―31日(土)
 場所 国立民族学博物館
 摘要 本シンポジウムは、財団法人日本生命財団の研究助成により、昭和57年2月から3年計画で、すすめられてきた。今回のシンポジウムは、最終年度に予定している研究成果のまとめの一環として開催された。

組織委員会

委員長 梅棹 忠夫 国立民族学博物館長
 委員 祖父江孝男 国立民族学博物館第一研究部長
 佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長
 伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究部長
 加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究部長
 岩田 慶治 国立民族学博物館第五研究部長
 秦 明夫 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

岩田 慶治	国立民族学博物館第五研究部長
事務局	
栗田 靖之	国立民族学博物館第二研究部助教授
松原 正毅	国立民族学博物館第二研究部助教授
秋道 智彌	国立民族学博物館第二研究部助手
須藤 健一	国立民族学博物館第四研究部助手
久保 正敏	国立民族学博物館第五研究部助手
山本 泰則	国立民族学博物館第五研究部助手
渡瀬 勉	国立民族学博物館管理部庶務課共同利用係
安武富士子	「子ども文化」事務局
岡 清子	「子ども文化」事務局
参加者	
1. 報告者	
綾部 恒雄	筑波大学
飯住 良夫	横浜市立汐見台小学校
石沢 誠司	京都府立総合資料館
石森 秀三	国立民族学博物館
岩田 慶治	国立民族学博物館
上原 輝男	玉川大学
宇治谷 恵	国立民族学博物館
江口 一久	国立民族学博物館
遠藤 庄治	沖縄国際大学
太田 和子	光陵女子短期大学
小野沢正喜	筑波大学
片倉もとこ	国立民族学博物館
北村 光二	弘前大学
君島 久子	国立民族学博物館
熊谷 圭知	九州大学
小林 茂	九州大学
小林 照子	東京都町田市立南第四小学校
坂元 一光	九州大学
周 達生	国立民族学博物館
鈴木 正崇	東京工業大学
武村 昌於	玉川学園, 小学部
田邊 繁治	国立民族学博物館
中川 節子	東京都町田市立成瀬台小学校

中村俊亀智	国立民族学博物館
野村 雅一	国立民族学博物館
畑野 栄三	テレビ朝日
早木 仁成	京都大学
平井タカネ	奈良女子大学
福井 勝義	国立民族学博物館
藤岡 喜愛	甲南大学
藤本 忠明	追手門学院大学
松澤 員子	国立民族学博物館
松尾 隆一	福岡県立小郡養護学校
丸山 顕徳	四条寮学園女子短期大学
宮田 登	筑波大学
山野 正彦	大阪市立大学
吉田 知義	郷土玩具研究家
劉 斌雄	中央研究院民族学研究所
渡辺弥栄子	中国児童文学研究会
和田 正平	国立民族学博物館

2. 討論参加者

安達みのり	大阪府子ども文庫連絡会
栗田 靖之	国立民族学博物館
黒田 悦子	国立民族学博物館
櫻井 哲男	国立民族学博物館
佐々木高明	国立民族学博物館
谷 泰	京都大学
松原 正毅	国立民族学博物館
箕浦 康子	岡山大学
小澤 俊夫	筑波大学

日 程

3月27日 (火)	
(司会 佐々木高明)	
10:00 館長挨拶	梅棹 忠夫
10:10 キーノート	岩田 慶治
11:00 子どものフィジォノミックな空間知覚	一スリランカと日本の調査事例から一
	山野 正彦
11:50 福岡市の都市化と子ども	小林 茂
	(松尾隆一)
(司会 片倉もと子)	
14:00 色彩・模様からみた自然観の習得	一東アフリカ牧畜民ナーリム族の事例から一
	福井 勝義
14:50 子どもの病気と世界観	一ミクロネシア・サタワル島の事例から一
	石森 秀三
16:00 原風景の構造	岩田 慶治
3月28日 (水)	

(司会 綾部 恒雄)
 10:00 子どものイメージに関する研究
 藤岡 喜愛, 小林 照子
 飯住 良夫, 武村 昌於
 中川 節子, 上原 輝男

(司会 栗田 靖之)
 14:00 子どもの身体運動と相互交渉
 問題の所在と展望 野村 雅一
 「からだことば」とコミュニケーションリズム 平井タカネ
 大人との相互行為にみられる“子どもらしさ” 北村 光二
 (早木仁成)

3月29日(木)

(司会 中村俊亀智)
 10:00 子どもの遊びと生活
 一変遷と比較一
 日本の子どもの遊びと生活 藤本 忠明
 高砂族の子どもの遊びと生活 劉 斌雄
 比較とまとめ 松澤 員子

(司会 松澤員子)
 14:00 シンハラ人の成女式 鈴木 正崇
 15:10 「子ども観」の変遷と比較文化
 日本の伝統的「子ども観」—7才までは神の子— 宮田 登
 南タイ・イスラム教徒の「子ども観」 小野沢正喜
 バリ・ヒンズーの通過儀礼よりみた「子ども観」 太田 和子
 韓国の人生儀礼における‘子ども’の領域の変化
 一祖先祭祀に及ぼす基督教の影響— 坂元 一光
 「子ども観」の変遷 綾部 恒雄

3月30日(金)

(司会 君島 久子)
 10:00 伝統玩具と現代

アチック玩具研究の残したのもの 中村俊亀智
 土人形の研究 吉田 知義
 瀬戸の陶磁器人形 石沢 誠司
 きじうま 畑野 栄三
 木製玩具と現代 宇治谷 恵

11:45 中国の子どもの遊び
 一その伝統と変容, および民族別・地方別類型のちがいについて— 周 達生

(司会 藤岡 喜愛)

14:00 アジアに於ける民間伝承と子どもとの
 かかわり
 沖縄の伝承と子どものかかわり 遠藤 庄治
 金屋子神の信仰と子ども 丸山 顕徳
 民話の中の子どもの靈性について 渡辺弥栄子
 中国少数民族の民話と子ども
 一昔話再考— 君島 久子

15:40 フルベ族の昔話と子どもたち 江口 一久

16:30 国家形成と子どもの教育
 一東アフリカ・ケニアとタンザニアの事例— 和田 正平

3月31日(土)

(司会 松原 正毅)

10:00 子どもの労働と遊び
 一アラブの事例を通して— 片倉もとこ

10:50 野生としてのギャング
 一19世紀イングランド農村の子ども労働— 田邊 繁治

11:40 「ピノッキオ」の民俗誌的文脈 野村 雅一

(司会 岩田 慶治)

14:00 総合討論

彙 報

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
周 達生	助教授(第1研究部)	59. 1. 4	59. 2. 29	中華人民共和国
石毛 直道	助教授(第4研究部)	59. 1. 17	59. 2. 25	ベトナム, タイ, ラオス, フィリッピン, カンボジア
ケネス・ ラドル	助教授(第5研究部)	59. 1. 17	59. 2. 25	ベトナム, タイ, ラオス, フィリッピン, カンボジア
大丸 弘	助教授(第5研究部)	59. 1. 23	59. 3. 5	連合王国
櫻井 哲男	助手(第5研究部)	59. 1. 28	59. 2. 25	大韓民国
松澤 貞子	助教授(第2研究部)	59. 2. 6	59. 3. 11	台湾
小谷 凱宣	助教授(第1研究部)	59. 2. 19	59. 3. 19	アメリカ合衆国, カナダ
宮本 勝	助手(第2研究部)	59. 2. 19	60. 2. 18	フィリッピン
福川 圭子	助手(第5研究部)	59. 2. 27	59. 3. 7	アメリカ合衆国
大森 康宏	助手(第3研究部)	59. 2. 27	59. 3. 24	アメリカ合衆国, フランス
栗田 靖之	助教授(第2研究部)	59. 3. 1	59. 3. 20	インド, スリランカ, シンガポール
藤井 知昭	教授(第2研究部)	59. 3. 12	59. 3. 21	中華人民共和国
崎山 理	助教授(第5研究部)	59. 3. 30	60. 3. 29	パプアニューギニア

来館者抄

1月9日	菅 泰男(大阪国際児童文学館開設準備室長)	27日	Sanchez CEFERINO(パナマ共和国 パナマ大学総長)
17日	邓 定 宇(中国 中国科学院外事局)	3月7日	水野祥太郎(大阪大学名誉教授)
2月7日	西村 豪(チリ共和国 チリ大学教授)	14日	新野幸次郎(神戸大学教授) 平井 一正(神戸大学教授)
13日	Paul Michael TAYLOR(アメリカ合衆国 スミソニアン研究所)	29日	Michael M. AMES(カナダ ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（散文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 *Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.*
In Eric H. Lennenberg (ed.), *New Directions in the Study of Language*,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 *Social Structure in Southeast Asia.* Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 *The Rites of Passage.* M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 9 卷 2 号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

加 藤 九 祚

〔編集委員〕

永ノ尾 信 悟

大 塚 和 夫

君 島 久 子

ケネス・ラドル

杉 村 棟

友 枝 啓 泰

垂 水 稔

長 野 泰 彦

藤 井 龍 彦

松 原 正 毅

和 田 正 平

昭和 59 年 8 月 31 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 9 卷 2 号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園 10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)
